

同窓会会報

第60号

平成9年1月7日
発行所 茨城県茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-03 TEL029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632 番
印刷所 印刷
(有) 双葉 印刷

同窓会としての

「鯉淵学園創立五十周年事業終結報告」

同窓会会長 福丸博房

寒中お見舞い申し上げます。

会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成八年は、厳しい社会の流れのなかで、どんな年でしたか、また、平成九年もお互いに健康で良き年であることを願うものです。

日頃、同窓会に対しご協力をいただき深く感謝申し上げます。大会で決定していただきました事業計画にしたがい事業を遂行しております。

さて、大きな節目でありました鯉淵学園創立五十周年も終え早一年、鯉淵学園創立五十周年記念事業委員会が計画しました記念行事、図書館の建設、五十年史の刊行等に対し会員各位のご協力は、絶大なるものでございました。

とくに同窓会として力を入れて取り組みました募金活動に対しては支部長さんを

始め多くの方に発起人をお願いし、その任を果たしていただき、成功裡に完了しましたことに厚くお礼申し上げます。

すでに募金等にご協力していただきました皆さんには、(助)農民教育協会、鯉淵学園創立五十周年記念事業委員会より、鯉淵学園創立五十周年記念事業報告書(平成八年十月)が送付されたことと思

います。これは、平成八年十月四日開催されました、(助)農民教育協会第一四五回理事会において、承認されたものです。これをもって記念事業は終了し、鯉淵学園創立五十周年記念事業委員会も廃止されました。

同窓会としても、平成八年十一月三十日開催しました「同窓会の鯉淵学園創立五十周年記念事業実行委員並びに常任委員及び監事合同会議」において、この記念事業関係を終結することに決しました

ので、長きにわたるご協力に感謝し、ここに謹んで報告申し上げます。最後に、同窓会に対するご協力と会員各位のご健勝を祈念申し上げます。

学園の近況と学生募集協力をお願い

教育部長 安藤義道

鯉学名物の雷柱のたつ季節となりました。最近では高下駄姿の学生をみかけることはなくなりましたが、まだ時々素足にサンダルばかりの学生はみかけます。でも段々男女ともにスマートになってきました。

さて、今年も学生募集のシーズンがやってまいりました。学園でも十一月十八日に九年度の推薦入学の合格発表をいたしました。その結果、農業経営科学科三七名、生活栄養科学科一五名の合格が内定しました。ただ残念なことは、この中に卒業生推薦枠である優先入学が農業

生活各一名であったことです。そこであらためて今後の学生募集への応援協力を同窓生の皆様にお願ひする次第です。なお、学園は七年度から四年制専門学校として生まれ変わり、卒業生への農業専門

士の資格称号と栄養士(生活栄養科学科のみ)資格並びに管理栄養士(国家試験)受験資格が与えられております。以下、現在募集中の一般入学募集要項を簡単に掲載しておきます。詳細は学園事務部教務係までお問い合わせ下さい。電話番号は〇二九一二五九一二八二一です。願書受付：一次募集締切

二次募集締切
同 三月十九日

合格発表：一次第一回一月二十四日

第二回二月二十四日

二次 三月二十七日



会長声明 『募金活動終結宣言』

分収林経営 従来方針継続確認 財政健全化目標 納入率四〇%設定

学園創立五十周年記念事業実行委員並びに常任委員及び監事合同会議は、平成八年十一月三十日(土)同窓会館において、別記「名簿」委員出席のもとに開かれ、募金活動の終結宣言、分収林対策及び財政健全化対策等について協議した結果、最大の懸案事項である分収林経営については、五月実施した分収林実地調査(長期育林診断予備調査)結果に基づいて従来方針の継続を確認、直ちに間伐を実施するとともに、枝打ち作業計画を策定して次期大会に提案することと合意が図られた。

協議の主なる項目及び概要は、次の通りである。
また、本会独自の学園創立五十周年記念事業実行委員会及び発起人会は、募金活動の終結と同時に解散となりますのでご了承願います。
期間中、関係各位のご指導ご協力に対して敬意を表しますとともに、深く感謝いたします。
今後、さらなるご活躍をご期待申し上げます。

創立五十周年記念募金活動終結

同窓会員応募金額 三、二七二万三、二〇〇円
応募者 一、六六七名・三団体

前回の会議で見送った募金活動終結宣言は、この十月、記念事業委員会から応募者各位の許に届けられた「鯉淵学園創立五十周年記念事業報告書」を受けて、これを高く評価、了承し、会長声明(別掲「挨拶」)の発表をもって活動に終止符を打つこととした。
記念誌「学園五十年史」は、近く発送されますので、今少しお待ちください。

財政健全化対策

平成八・九年度予算に計上している会費収入は、二千名分・六百万円、おおよそ会員の四〇%に相当することから、この確保を前提に、各都道府県支部毎の会費納入率四〇%達成を目標として設定することが承認されたものである。

今後、各支部に要請して、本会の宿願である健全財政の確立を推進する方針でありますので、ご支援くださるようお願いいたします。

会員各位には、別掲「平成八・九年度会費納入者数集計表」を参照して、目標以上の成果が収められるように、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

分収林経営育林対策

分収林実地調査(長期育林診断予備調査)の結果を基に、従来の方針を続行することと合意が図られた。

調査結果については、会報第五九号(前号)に報告した通りであるが、念のため「総合所見(要旨)」を再掲することとする。

【総合所見】
分収林は、日照、温度、水分及び乾湿等の気象条件と土壌条件に恵まれ、しかも、植林の障害となるフジヤクズをつる性植物は排除されて管理が行き届いている。

樹勢は旺盛で、しかも順調に生育している。将来、有望な人工林として育つことは間違いない。(調査員全員の一致した意見)間伐と枝打ちは、直ちに実施する必要がある。(作業適期・十二月〜二月)

以上の結果、本年度は、間伐作業を実施することとし、枝打ちは予算の範囲内で必要最小限にとどめ、残りの大部分は次期大会の意向に従って対策する方針で了承された。

本委員会は、分収林の管理を、献身的に担当してくださる茨城県大子町所在の林業経営家・益子驥・◎ご夫妻に敬意を表し、深く感謝するものである。

名簿登録事項 確認事務促進

平成九年七月発行を目指して進めている会員名簿【第12版】出版作業は、会報第五九号掲載の「出版頒布要領」に従い順調に進んでおります。

現在、第一回確認調査の結果所在不明の二二二名を重点に、調査カード未回収分と合わせた、一九三名を対象として第二回調査を実施しております。

該当者は、登録事項等変更の有無にかかわらず、必ずご回答くださるようお願いいたします。事務局では、一〇〇%の回収を目指して頑張っております。
また、購入の予約申込みも併せてお願いいたします。

いします。従来は、希望により随時販売して来ましたが、財政負担の軽減を図るうえから、予約限定販売に切り換える必要に迫られております。この苦しい財政事情をご賢察のうえ、一冊でも多くの予約申込みでご講読、ご支援くださるようお願いいたします。

【第一回確認調査結果概要】

- 名簿登録会員数 六、〇二二名
- 所在判明者 五、四二〇名
- 外国居住者 一五名
- 死亡者 三六六名
- 所在不明者 二二一名
- 調査カード発送者 五、四六六名
- 調査カード回答者 二、一九一名
- 名簿購入申込冊数 一、二四六冊

【別記名簿】

- 合同会議出席者
 - (役職、氏名、所属、卒期の順)
 - 会長 福丸 博房 埼 玉⑨
 - 副会長兼常任委員長 吉川 昭雄 茨 城⑪
 - 常任委員兼茨城県支部長 岩持 文彦 茨 城⑦
 - (事務局長)
 - 常任委員 根本 保夫 茨 城⑤
 - 実行委員兼栃木県支部長 川上 忠 栃 木⑤
 - 常任委員兼東京都支部長 白土 忠男 東 京⑨
 - 常任委員 住吉 達男 東 京⑩
 - 常任委員兼神奈川県支部長 北村 康祐 神奈川②

- 常任委員 西村 典夫 学 園④
 - ” 工藤 徹郎 学 園④
 - 常任委員 佐藤 利文 学 園⑤
 - ” 磯野 卓司 学 園⑤
 - 監 事 砂田 義雄 学 園⑤
 - ” 本宮 好美 茨 城⑫
 - 協合理事 満永 正昭 千葉④
- (以上一五名)

『振替用紙配布』

新しい様式の振替用紙「払込取扱票」を全員に配布します。

- 学園五十年史 六、〇〇〇円
- 会員名簿【第12版】 三、五〇〇円
- 平成八・九年度会費 三、〇〇〇円
- ・・等の申込み送金にご利用下さい。
- 名簿代金または会費の払込みは、極力先に送付した所定の用紙を使用することとし、この用紙は予備としてご使用ください。
- また、学園五十年史の申込み送金にあたって五十周年記念募金三口以上応募された方は、記念事業委員会から贈呈の内有りしますので、申込みを保留してお待ちください。該当者で既に代金納入の場合は、返金いたします。

支部・同期の動向

紙面都合により記事省略、会議概要として、◆開催年月日、◆会場又は開催地、◆代表者、◆出席者又は出席人数、◆派遣員、◆主なる会議内容の順に記載する。○数字は卒期、括弧数字は通信課程卒期である。

兵庫県支部総会

- ◆平成八年七月六日(土)〜七日
- ◆朝来郡朝来町多々良木七二七―二
- 「多々良木みのり館」
- ◆支部長 加藤 信 二⑤
- ◆出席者 二二名
- 河合 寅 男② 高木 経 吉②
- 伊 福 靖④ 戸田 寮 一②
- (和歌山在住) 田中 義 治③
- 加藤 信 二⑤ 田中 久 隆③
- 橋本 清 伯⑥ 森友 敏 則③
- 足立 優⑦ 岡井 明 美④
- 加藤 整⑩ (京都在住)
- 奥田 和 夫⑩ 西浦 英 子④
- 近本 恭 記⑫ 吉川 千鶴子④
- 富垣 淳 生⑬ 西川 達 郎④
- 出店 利 彦⑭ 芦田 靖 司⑤
- 岩本 佐知子⑯

愛媛県支部総会

- ◆平成八年八月二十四日(土)
- ◆松山市三番町一丁目「末広」
- ◆支部長 岡 一郎⑩
- ◆記念写真

- ◆派遣員 岩持 文彦⑦ 事務局長
- ◆会議内容 事業報告及び計画の承認、本部事業に対する協力要請
- 学園近況報告等。

特別講演・伊 福 靖④

(黄綬褒章受章記念)

伊福 靖のあゆみ。



◆出席者 一八名

- 岡本 喜加男④ 岡野 幹 男②
- 堀本 次男④ 藤内 文雄②
- 大西 宏④ 加藤 尚②
- 菊池 延次⑨ 上甲 修三②
- 岡 一郎⑩ 堀川 章②
- 高岡 君夫⑬ 山崎 公紀⑬
- 白石 幸雄⑮ 本多 忠志⑬
- 戸田 歳明⑳ 加藤 修二⑭
- 藤原 政夫㉑ 宮浦 由香里⑰

◆派遣員 福丸 博 房⑨ 会長

◆会議内容 事業報告及び計画の承認、本部事業に対する協力要請、学園近況報告等。

岩手県支部総会

◆平成八年十月二十六日(土)

二十七日

◆花巻市台二一六八一七

台温泉「杉村旅館」

◆支部長 高橋 利清⑨

◆出席者 一八名(記念写真紹介)

◆派遣員 岩持 文彦⑦ 事務局長

◆会議内容 事業報告及び計画承認と本部事業に対する協力要請、学園近況報告等。

◆役員紹介(役職、氏名、卒期の順)

- 支部長 高橋 利清⑨
- 副支部長 芳賀 正美⑭
- 事務局 久慈 宗悦⑳
- 加藤 勝信㉑

理事(分会長)

- 盛岡分会長 加藤 謙次⑭
- 紫波 ” 久保 良雄②
- 花巻 ” 阿部 豊⑨
- 北上 ” 高橋 利清⑨
- 胆江(胆沢・江刺) 五嶋 隆俊⑨
- 両磐(東西磐井) 及川 敬士⑨
- 遠野分会長 大洞 俊⑪
- 気仙 ” 道下 喜美男⑬
- 久慈 三戸分会長 大沢 俊光⑳

◆記念写真



【写真説明】

- 前列左から 鈴木 岩持⑦、小野寺 芳男⑨、佐藤 伊藤⑪、佐々木 菅原⑫
- 中列左から 共成⑩、藤村 稔⑭、木一夫⑮、菅原 彰⑯
- 後列左から 国分 高橋⑬、加藤 川村⑭、高橋 久慈⑮
- 喜治郎⑬、利清⑯、謙次⑭、普運⑮、敏夫⑯、宗悦⑰
- 及川 鷹背⑱、五嶋 加藤⑲、大坪 敬士⑳、武⑳、隆俊㉑、勝信㉒、京三㉓

八期生会

◆平成八年十月十二(土)～十三日
◆福島県郡山市熱海町熱海二一七
「磐梯グランドホテル」

◆出席者 二三名

- 平谷資利【鹿児島】 中込 武【山梨】
- 阪衛睦子【宮崎】 松村義明【長野】
- 原口豊治【佐賀】 坂田栄八【新潟】
- 金高敏輔【福岡】 高島 武【栃木】
- 金高洋子【福岡】 細野武男【栃木】

十二期生会

◆平成八年十月二十五日(金)

二十六日

◆広島県佐伯郡大野町八一三〇

(宮浜温泉郷)

「国民宿舎」宮浜グリーンロッジ

◆出席者 二四名

- 若林 均【茨城】 上田信子【奈良】
- 榎戸錦子【茨城】 三徳 毅【島根】
- 櫻村清三【茨城】 桑原謹二【広島】
- 夫人同伴 福田修身【広島】
- 本宮好美【茨城】 城木信恵【広島】
- 川田 浩【栃木】 加藤秀明【広島】
- 石塚ケイ子【栃木】 新田九州男【熊本】
- 豊田ナミイ【千葉】 夫人
- 横館睦子【神奈川】 男子孫同伴
- 高橋 清【新潟】 尾石正忠【大分】
- 室岡順一【新潟】 大賀新二【宮崎】
- 普光江文江【兵庫】

異色の同窓会

『鯉淵友の会』松島に集う!

平成八年五月二十五日(土)～二十六日

日本三景・松島「ホテル荘観」

正しくは、鯉淵学園農村研究会友の会。去年は茨城・大洗シーサイドホテル、今年
は宮城で来年新潟と会場は持ち回りの設営。一三期から一六期の面々、連れ合いを巻
き込んでの研究交流である。今回で五回目を数える。

狙いは、その土地、その地方の農村風習見学・・・?もさることながら、第二部懇
親で飛び出す婦人連の隠し芸は、プロ顔負けの超特級技連発でいやがうえにも席は盛
り上がる。

さて、来年はどんな顔触れなのか?!・今から楽しみだと言う。まずは写真をこ
覧あれ・・・!



【写真説明】

- ⑮ 深沢 慶吉【秋田】
 - ⑮ 小嶋 宏夫人
 - ⑭ 加藤 謙次【岩手】
 - ⑬ 長尾 憲和【高知】
 - ⑭ 浅田 昌男【茨城】
 - ⑮ 小嶋 宏【秋田】
 - ⑭ 大竹 勝次【栃木】
 - ⑭ 武藤 恒美【秋田】
 - ⑭ 益子 駿一【茨城】
 - ⑯ 土方 貞信【東京】
 - ⑭ 遠藤 弘司【宮城】
 - ⑮ 岩淵 齊【岩手】
- (後列左から)
- ⑮ 岩淵 齊夫人
 - ⑮ 深沢 慶吉夫人
 - ⑭ 西潟 範子【新潟】
 - ⑯ 青木久良子【東京】
 - ⑭ 益子 駿一夫人
 - ⑭ 遠藤 弘司夫人
- (前列左から)

支部長異動

佐賀県支部長 原口 豊治⑧

平成八年十月十六日

支部長報告

名誉教授・新井正雄先生ご逝去

平成八年八月十四日、新井正雄先生は忽然としてご他界になられた。御年八十才。
謹んでご冥福をお祈り申上げる。

先生は昭和二十二年、鯉淵学園(当時高等農事講習所)の助教授としてご着任。昭
和五十七年に至る三十五年の間、食品・食品加工・食品衛生等の担当教授として学生
の指導に専心され、鯉淵学園の教育に大きな貢献をなされた。御不幸は相續いて、十
一月九日には、竹雄夫人がお亡くなりになった。謹んで哀悼の意を表する。

喪主はご長男・新井敬介氏

(㊦)二四三〇三 神奈川県愛甲郡愛川町中津五一―二

哀悼

香川県支部	藤 沢	勲⑤	平成八年三月二十六日
宮城県支部	後 藤	典③	六月二十七日
富山県支部	竹 嶋	昭⑦	十月十三日
愛知県支部	水 野	奨⑦	十一月九日



上村高直先生 満百才を迎えられる

上村先生は昭和二十二年四月から二十四年四月に至る二ヶ年余、英語、哲学の担当教授として、学生の教育に当たられながら、教務部長の要職にあつて、創設初期の鯉淵学園（当時は高等農事講習所）教員万般にわたる整備充実に腐心された。学生は第三期生から第六期生の一部。坦々として講ぜられる西田哲学（先生は京都大学哲学科のご卒業）、夜分に自宅にまで参上してご指導をたまわつた往事を想い起しては、深甚なる感謝の念に加えて、慙愧の思いが過（よ）ぎる。

次は、百才の記念に、先生がお詠みになつたもの。

世界平和の理想に燃えて 只宮

二十一世紀を待望す

先生の益々のご健勝をお祈り申上げる。

（御住所 千八八〇一 福岡県太宰府市石坂三二二二〇）

満蒙開拓指導員養成所の思い出の記（中）

二期四組 京都府 金田裕章

◇小島さんと乳牛舎の追憶

4組は畜産科であるから実習内容は畜舎関係に移行し、乳牛舎・馬房・豚舎・鶏舎・山羊舎と一定期間の実務に付くこととなった。それぞれの思い出は書ききれないが特に印象の深い乳牛舎・豚舎について記述していきたい。

乳牛舎で感謝を込めて特記しなければならぬのは、既に故人となられた一期の小島三郎さんのことである。小島さんには畜産人としての基本的な心構えにつ

い、もし己の怠惰な心を許してしまえば、良き畜産家としての資格を失つたも同然である。一偉大な先輩が残してくれた遺言である、今も私は思っている。

さて、2年生になると畜産部門の特化が進むので生活の拠点を乳牛舎に移し、午前の学科を除いて殆どをここで暮らすこととなった。指導教官は若い福岡助教授であつたと思うが、実技は専ら経験豊かな大高さんに手を取って教えてもらった。その傍らフレザの酪農論や岩田教授の家畜飼養学を読みふけた記憶が残っている。乳牛舎の経営は飼育頭数を増やすため、千葉市にあつた国立畜産試験場から種牡牛を借り受け、発情期には次々と種付けを行つた。今から思えば栄養状態も分娩期をあまり考えないで随分無謀な事をやつたものだが、おかげで私は大変貴重な実習教材に恵まれた。種付け・妊娠鑑定・妊娠管理・助産・哺乳・搾乳の他様ざまな難産や乳房炎に遭遇することが出来た。とにかく実習が面白くて愉快であつた。昼夜の別なく糞と乳と汗とにまみれながら働き学んだ。特に後産停滞の管理には手を焼いた。搾乳中腐敗臭の強い汚露の垂れ下がる尾っぽで、頬や目をいやと言うほどしほかれる痛さは例えようもないが、それほど苦にもならなかつた。当時ミルクはまだなく総て手搾りであつたから、どの乳牛でも搾れるようになることが畜産科学生の勲章であつた。特にHY10世は繊細で柔軟な乳房を持ち搾乳も軽く良質乳を多量に分

泌したが、非常に神経質な牛で動作は敏捷、下手な搾り手は寄せ付けなかつた。あつと言う間に搾乳バケツを蹴飛ばされたりバケツに脚を突っ込まれてしまう。ある時は搾乳中に蹴飛ばされ倒れた学生の腹の上に牛が乗って大騒ぎをしたこともあつた。

このように実技をおして学びとつた知識と経験は、誰にも負けないと言う自信と誇りに成長して行つたように思う。その活躍の舞台であつた乳牛舎は、昨今の学園通信によれば取り壊されたようであるが、小島さんの面影と重なつて惜別の情ひと潮である。

◇牛乳加工と逃した先輩者利権

乳牛飼育管理を一通り学習体験したその次は、牛乳の処理加工・肉製品加工へと関心が向いて行つた。先ず牛乳加工に付いては中江利郎さんの「乳製品の加工」を養賢堂から取り寄せ、丹念に読みながら実技について大高さんの指導を受けた。低温殺菌・高温殺菌・瞬間殺菌とそれぞれの特徴を意識しながら、直径1メートルもあつたであろう？大釜を使って、温度計一本と攪はん棒を頼りに毎日牛乳処理を行い、職員官舎と学生食堂に供給した。現在の合成加工乳の味しか知らない大部分の若者達は、あの芳ばしい香りとまるみある甘味をもつた牛乳の本当の美味しさは恐らく知らないであろう。ところで、次々と続く分娩により、飲用に出来ない初乳が随分溜まってきたので、

クリーム分離・バター作り・チーズ製造と学習の領域を広げて行った。今では古典技術となった浅缶法・深缶法をテキスト通りにやってみて、クリーム分離の原理と基本を学んだ。実際の処理は専らセパレートによる円心分離法によるのであるが、温度と手動ハンドルの回転数をいろいろ組合せ、その変化に思索を凝らしていた当時の姿が懐かしく思い出される。

バター作りでは、脂肪粒子を結合させるチャーニング操作が大面白かった。

なかなかうまくは行かなかったがチャーンの蓋を開けたとき粟粒大から米粒大の脂肪粒子が見事にホエーと分離して、きれいに浮き上がったときの感激は忘れることが出来ない。クリームの質が量か温度か回転か、ワクワク・ドキドキしながらチャーンを回すのである。もし温度が上がり過ぎていくとき「粒子がもう少し小さいな・・・」等と思ひ、ハンドルをちょっと回したその途端、ドタドタと衝撃が走って脂肪は馬鈴薯大の塊になってしまう。これでは如何にあとの水洗を念にしても、ウオーキングを工夫しても良いバターは出来ないのである。各過程での仕様や微妙な操作の稚拙さが製品の品質に大きく影響するようで、熟練の貴さを痛感したものである。これは余分の話ながら、当時学生仲間にも長髪が流行したが、ポマードなどは簡単に手に入らない。ちょっと失敬して、失敗バターは私の頭髪を見事に整えさせてくれたもの

である。

バターよりもっと難しかったのはチーズであった。脱脂乳に乳酸発酵を起こさせカゼインを作る事は出来たが、チーズのレンネットを加えてカドを作る行程は難しく大変であった。当時市販のレンネットなど何処にもなかったので参考書を頼りに作ってみることにした。産後間もない仔牛（第1〜第3胃の発達しないうち）の胃を取り出し、風船状に膨らませて冷蔵庫で乾燥させ、それを細く裁断して塩水に浸し浸出液を得るのである。この手作りレンネットで脱脂乳を凝固させカドを作るまではできたが、以後の行程は設備も時間的余裕もなく残念ながら文献上の学習だけに終わってしまった。

戦後の食事情は大きく変化し、チーズの消費量は驚異的な伸びを見た。あの時抱いたチーズ作りへの強い関心と興味を、もしも迷わず追跡し続けていたとしたら、私の運命はもっと違った展開をしていたであろうし、手にした先駆者利潤はどれほど大きなものであったか知れない。

◇エン魔大王と仲良く暮らす

畜産加工で、もう一つ手にした技術は精肉加工である。それは屠殺解体から始まるのであるが、この点大高さんは一流の技術者であった。豚肉は学生給食の重要な蛋白脂肪給源であったから、屠殺解体技術を享受する機会には事欠かなかった。方法は原始的な刺殺放血法で頸静脈

を切断するのであるが、少なくとも動物の命を奪うのであるから一番嫌な瞬間である。私はせめて一突きて刺止め苦痛を最小限にしてやるのが務めであり技術であると思っていた。はじめは手が震えて呼吸が乱れなかなか手元が定まらず、屠畜の悲痛な鳴き声に鼓膜も裂けそうになる。初めての実習見学では顔面蒼白血を起す者がいたり、自分の手が傷つき出血しているのに気が付かない術者もあった。屠体は、湯剥ぎ・内蔵摘出・背割り・放冷とすずめ精肉にするのであるが、よい精肉を得る技術は放冷を完全に行うことと、解剖学的に骨格韧带関節の構造を熟知することである。さらに骨を握って肉をはずそうとするのではなく、出来るだけ肉を持って骨を除くのがコツである。

思えば、明日の給食に間に合わす為、底冷えのする加工場で深夜まで、かじかむ手をさ擦りながら一生懸命に習い憶えた刀裁きであった。

大部分の精肉は職員官舎と学生食堂で消費したが、ソーセージの加工を試みる機会がやってきた。話はやや横道にそれるが、背が高く乗れば天下を見おろす大名気分、走りも早い駿馬「笠置号」は、残念なことに錯癖（空気をのみこむ癖）があり、これを矯正する手術実習を清水獣医大佐の指導で実施した。しかし、無念にも名馬は再起しなかった。やむなく解剖教材に利用し骨格は標本に組み立て、今も鯉淵学園に当時の姿を残している筈である。この時まとまった精肉が得られ

たのでソーセージ加工の勉強をすることになった。原料肉の配合、血抜き作業・塩・調味料・発色剤の添加、片方では豚の小腸からケーシングを作り、ほこりを被っているサイレントカッター（肉裁断混合機）やスタップファー（腸詰め加圧機）の水洗調整など、心はやる思いであった。加工のクライマックスはスタップファーで原料をケーシングに装填する過程である。原料の固さ・加圧具合・ケーシングの状態など調子が揃わないとパンクしてしまう。10センチメートル毎に結束して竹竿に掛け燻煙室に運び、桜の割木と櫨のおが屑を使って燻煙する。つぎにボイルして出来上がりであるが、興味は尽きないものがあつた。

畜産加工に熟した私は、学生の同僚諸君に良質の蛋白脂肪食糧を供給し、楽しい食事をしてもらうことが出来た。しかし一方では、図らずも、多くの殺生を犯すことになってしまった。犠牲となつた豚牛鶏犬様にはまことに申し訳なく、いくら冥福を祈ったとしても、到底極楽浄土へは行けそうにない。いずれは閻魔大王と仲良く暮らさなければなるまいと思っている。

◇四斗樽とチンチョウで開いた活路

一乳牛舎実務実習の次は豚舎実習に移った。ここでは主任の稗田さんと相談して飼育豚の増殖計画に取り組んだ。しかし、食糧にも事欠く情勢の中でどう飼料の絶対量を確保するかが最大の課題である。

私達が最初に実施したのは病院・学生食堂等の残飯を活用することであった。四斗樽とチンチョウを二輪の牛車に積んで馬房の和牛（くろべー）に引かせ、雨の日も風の日も徹底的に収集を行った。夕闇迫る農場の畦路を残飯を満載して「くろべー」の尻を叩き叩き、美声の稗田さんが「目ン無い千鳥の高島田…」とやれば負けじと私が「見えぬ鏡が痛わしや…」と掛合で腹の底から歌う。頬を撫でる薫風に心も浮かれて残飯集めも結構楽しく愉快であった。この努力が小谷農場長（後に奥尻島開拓に入植）に認められ魚粕、皮大麦、甘藷馬鈴薯・澱粉粕等が配給されることになった。これらを収集した残飯と一緒に煮熟し、米糠、ふすまを加えて自家配合飼料とし、どうにか飼料確保の目処を立てることが出来た。

第二の課題は寄生虫対策であった。栄養状態の良くない豚ほど内部寄生虫に犯され易い。しかし、回虫駆虫薬のサントニンは殆ど手に入らないので幼豚のみに投与し、中成豚には「まくりの煎液」投与で間に合わせた。24時間給飼給水を断ち、大釜で充分煎じ出した液を一気に飲みますのである。これが的中したのか飼料給与の改善効果が現れたのか豚の健康栄養状態は日を追って良くなって行った。ところが外部寄生虫のダニには困った。手に入る限りの薬剤を集め塗布・薬浴といろいろ試みたが大豆粒ほどにもなる黒いダニは皮膚に食い込んで退治できなかった。たまたま馬房の友田主任が東京

で入手した僅か封筒に二分の一段のDDT粉剤が、今までどうにもならなかったダニ駆除に驚異的な威力を發揮し、改めてアメリカの科学技術に脱帽したものである。かくて増殖計画の第一歩は軌道に乗り、飼育豚は、栄養良好・活力に満ち・皮膚は桃色の餅肌・被毛は光沢を持ち・尻の尖った豚はいなくなった。ここまできると種牝豚には良好な発情がみられるようになったので、空き腹がない様次々と種付けを行った（農学科学生諸君の慰安興業でもあった）。普通一腹産仔数は五〜八頭であるが十六頭も出産する母豚もいた。七対しかなない豚の乳頭だけに、分娩期の似かよった親豚のいるときは、その糞尿を仔豚に塗りつけて里子を成功させたり、いろいろな体験を積み重ねることができ、助産哺育はとて面白かった。こうして増殖した仔豚は近隣農家から競って購入希望があり、甘藷大麦で決済する農家もあって飼料確保は一層やり易くなっていた。

近年3Kなどと言って、豊かさのあまり、ややもすると勤労を蔑視する風潮がまかり通っているが、危険防止には充分気を配りながらも仕事で或る以上、多少の汚さや苦しさは克服する気構えが必要である。人間が生きていく上では、例えば3Kであっても誰かがしなければならぬ大切な仕事がある。決して「働くことを嫌い、工夫と努力を軽んじてはならない。」ということだ。でなければ、暮らしに必要な物の確保はおろか、よい生活

環境でさえ守ることはできない。飽食と金満の社会にどっぷりと漬かり、奢侈な生活しか知らないモヤシの様な浪費人間が幅を利かすような時勢に成ったが、「勤労を疎んずる民主社会の出来な損ない共！」と苦々しく思うのは、弁当箱の蓋に付いた米粒から先に食べた、昭和一桁生まれの偏屈やへソ曲がりの性であろうか。（つつく）

【お詫び】

前回、上編では、校正不良箇所が多く、読者各位は勿論のこと、著者には大変ご迷惑をおかけいたしました。心からお詫び申し上げます。

